

## 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2014年10月分)

## 豪ドル資産の軟調が目立つ

- ブルームバーグのデータによると、10月の売出債(個人投資家向けの外貨建て債券)総発行額は+1,364億円、償還額は+1,574億円となり、総発行額から償還額を差し引いた純発行額は▲211億円の償還超となった(図表1)。
- 売出債の年間純発行額を通貨別にみると、2014年は豪ドルが▲4,289億円の償還超(10月までのデータを年率換算、以下同じ)となっているほか、南アフリカランドは▲340億円、ユーロは▲176億円、トルコリラは▲164億円の償還超となっている(図表2)。一方で、米ドルは+615億円、メキシコペソは+356億円の発行超となっており、全体の発行額を支えている。
- 投資信託協会の外貨建投資信託の純資産総額(為替評価調整後)の推移によると、10月は27兆1,288億円と前月の26兆1,894億円から増加し、2011年7月以来の高水準となった。
- 通貨別にみると、米ドルが14兆8,638億円と前月の13兆8,655億円から増加し、2004年8月以降のデータで最大となった。一方でブラジルレアルは1兆873億円と6か月連続で縮小し、2009年7月以来の低水準となったほか、トルコリラも1,349億円と3か月連続で縮小し、2012年8月以来の低水準となった。(図表7、8)。
- 金融先物取引業協会(FFAJ)の店頭外国為替証拠金取引および東京金融取引所(TFX)の取引所為替証拠金取引のデータによると、10月の個人投資家による為替証拠金取引ネット・ポジションは+1兆3,279億円と前月の+1兆8,033億円から減少し、2014年3月以来の低水準となった。
- 通貨別にみると、豪ドルが+3,614億円と前月の+8,179億円から急減したほか、ユーロは▲870億円と2014年4月以来の売り持ちに転じ全体を押し下げた。また、ニュージーランドドルは+2,376億円となり、2008年11月以降のデータで最大を記録した前月の+3,395億円から縮小した。
- 他方、米ドルは+7,812億円と前月の+5,245億円から拡大したほか、カナダドルも224億円と前月の174億円から拡大した。

国際為替部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌 大輔

03-3242-7065

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト

深谷 公勝

03-3242-7065

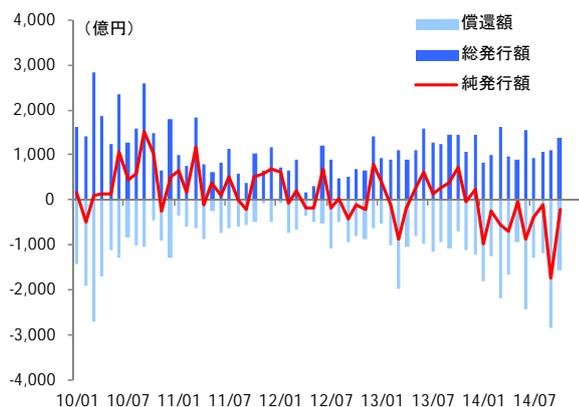
masakatsu.fukaya@mizuho-bk.co.jp

多田出 健太

03-3242-7065

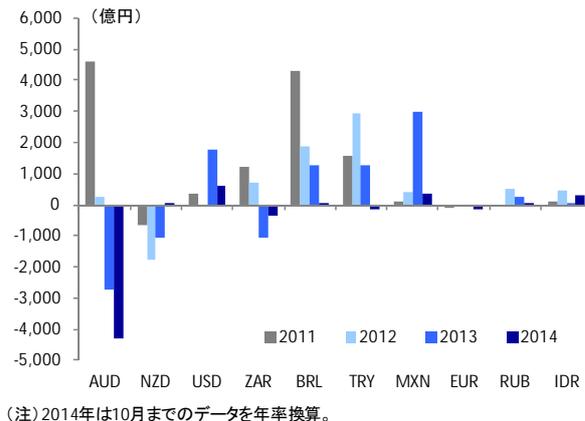
kenta.tadaide@mizuho-bk.co.jp

図表 1 : 売出債の発行額・償還額（外貨建て）



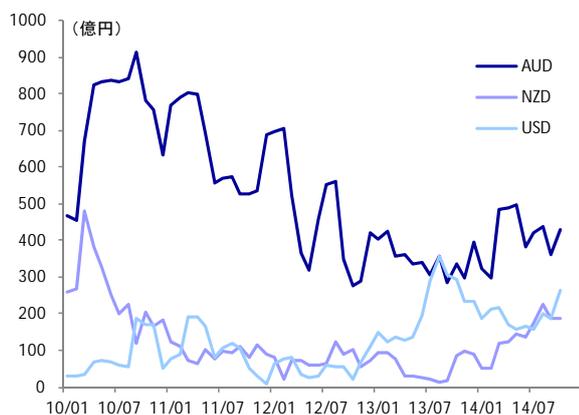
(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2 : 売出債の年間純発行額（通貨別）



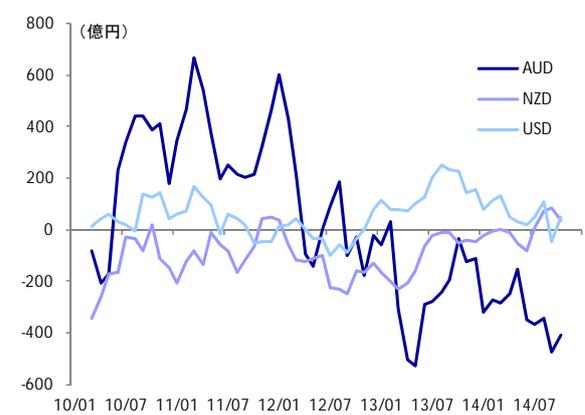
(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 3 : 売出債の総発行額（先進国、3 ヶ月移動平均）



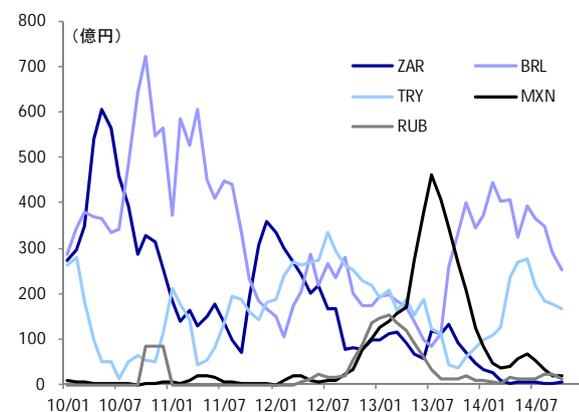
(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4 : 売出債の純発行額（先進国、3 ヶ月移動平均）



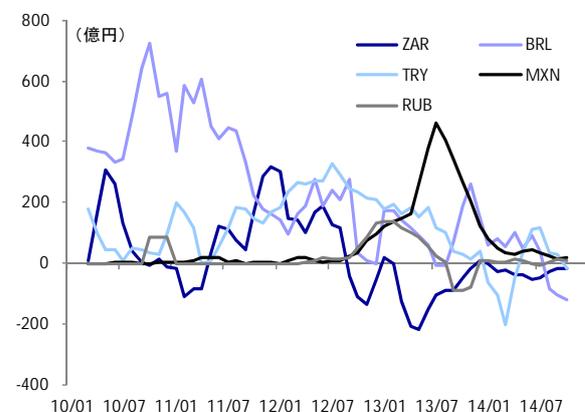
(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 5 : 売出債の総発行額（新興国、3 ヶ月移動平均）



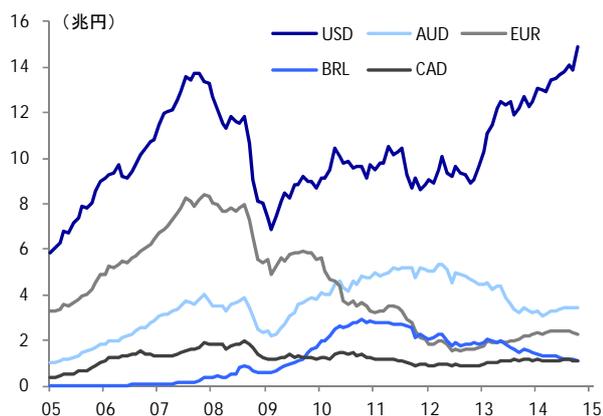
(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 6 : 売出債の純発行額（新興国、3 ヶ月移動平均）



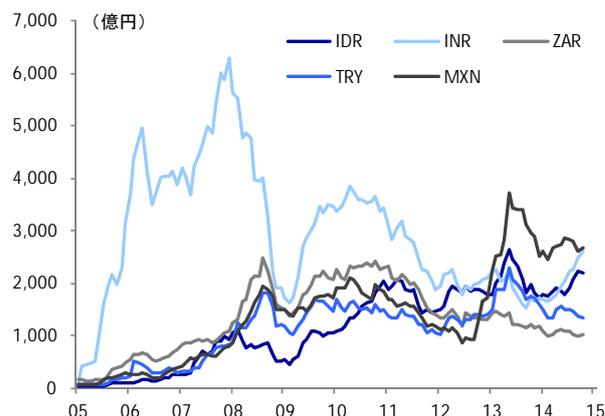
(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 7 : 投資信託の純資産残高 (USD, AUD, EUR, BRL, CAD)



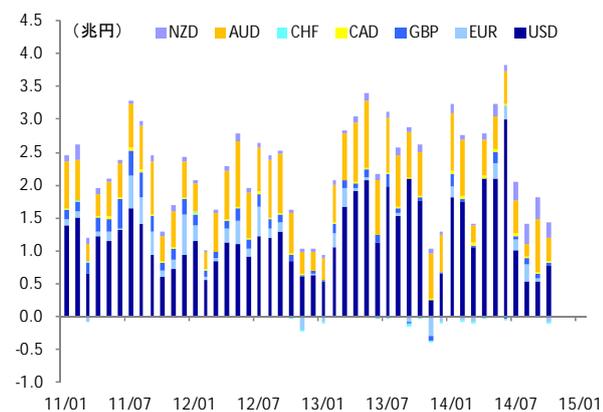
(資料) 投資信託協会、みずほ銀行 ※為替評価調整後

図表 8 : 投資信託の純資産残高 (IDR, INR, ZAR, TRY, MXN)



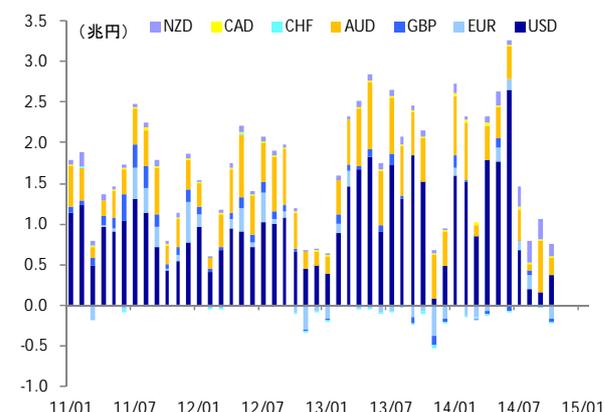
(資料) 投資信託協会、みずほ銀行 ※為替評価調整後

図表 9 : 為替証拠金取引ポジション (FFAJ、TFX 合算)



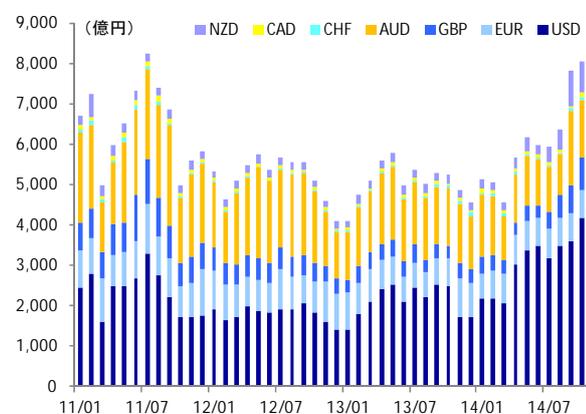
(資料) 金融先物取引業協会、東京金融取引所、みずほ銀行

図表 10 : 外為証拠金取引ポジション (FFAJ)



(資料) 金融先物取引業協会、みずほ銀行

図表 11 : 取引所為替証拠金取引ポジション (TFX)



(資料) 東京金融取引所、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuho.com/jp/forex/econ.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2014年11月18日	過去の円安局面と違う2つの要素～実質金利と需給～
2014年11月17日	本邦7～9月期GDP～続く所得面の悪化～
2014年11月14日	週末版(2周年を迎えたアベノミクス～何が変わったのか～)
2014年11月11日	本邦9月国際収支統計などについて
2014年11月10日	【特別版】『中期為替相場見通し』の臨時改訂
2014年11月7日	週末版(ECB理事会を終えて～正式に始まった「量」への挑戦～)
2014年11月6日	当面は温存されそうな実現不可能なポリシーミックス
2014年11月5日	ECB理事会プレビュー～現状維持を予想～
2014年11月4日	日銀金融政策決定会合(10月31日開催分)
2014年10月31日	週末版
2014年10月30日	FOMC声明文を受けて(10月28～29日開催分)
2014年10月28日	カバードボンド購入額をどう読むか?
2014年10月27日	欧州ストレステストを受けて～本当の勝負はこれから～
2014年10月24日	週末版(ユーロ圏PMIや域内のスラック(弛み)について～インフレ率が上がらない構造的背景～)
2014年10月23日	ECB社債購入を巡る3つの問題点
2014年10月22日	現時点の消費増税に対する市場の反応イメージについて
2014年10月21日	カバードボンド購入プログラム(CBPP3)などについて
2014年10月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2014年9月分)
2014年10月17日	週末版(米為替政策報告書について～ドル高容認か?～)
2014年10月16日	昨日の相場混乱について～ドル/円は適正な水準まで調整へ～
2014年10月15日	原油価格下落が日米欧金融政策に与える影響
2014年10月14日	G20を終えて～円とユーロで全く違う「通貨安の正当性」～
2014年10月10日	週末版(ドル/円相場の新しい節目～均衡水準は20%円安に?～)
2014年10月9日	FOMC議事要旨(9月16～17日開催分)を受けて
2014年10月8日	日銀金融政策決定会合を終えて～迫る期限の弾力化～
2014年10月7日	経済財政諮問会議(10/1)議事要旨を受けて
2014年10月6日	米9月雇用統計を終えて～経験則に照らせば利上げ?～
2014年10月3日	週末版(ECB理事会を終えて～需要不足と向き合うECB～)
2014年10月2日	短観9月調査に見る円安コストの陰
2014年10月1日	ECB理事会プレビュー～「量」を評価軸とする難しさ～
2014年9月29日	ドル高を阻むもの
2014年9月26日	週末版
2014年9月25日	安倍首相発言や最近の株高などについて
2014年9月24日	ドラギ総裁の欧州議会証言について～「量」の再強調～
2014年9月22日	ケアンズG20 財務相・中央銀行総裁会議を終えて
2014年9月19日	週末版(第1回ターゲット型長期流動性供給(TLTRO)について～厳しくなる「量」の追求路線～)
2014年9月18日	FOMC(9月16～17日)を終えて
2014年9月17日	ドル/円相場の水準感に係るヒント
2014年9月16日	スコットランド独立についての論点整理
2014年9月12日	週末版(必要なのは「円安前提の成長戦略」～心配しなくても円安は進む～)
2014年9月10日	官製相場となったユーロ相場への考察
2014年9月9日	円安を巡る財界要人発言を受けて～伸び悩み実質GDI～
2014年9月8日	本邦7月国際収支統計などについて
2014年9月5日	週末版(ECB理事会を終えて～官製相場の様相を呈してきたユーロ相場～)
2014年9月4日	9月レバトリの妥当性や今後の直接収益などについて
2014年9月3日	105円台を受けて～日米2年金利差からの推計値など～
2014年9月2日	再び迫る「市場のユーロ売りvs.SNBのユーロ買い」
2014年9月1日	ECB理事会プレビュー～最大の注目点は声明文?～
2014年8月29日	週末版
2014年8月27日	止まらない欧州金利の低下～財政が嫌なら介入のみ～
2014年8月26日	ドラギ総裁の「3本の矢」～驚きずくめのジャクソンホール講演～
2014年8月25日	イエレンFRB議長講演～「見たいように見る」相場～
2014年8月22日	週末版(ユーロ圏からの資金流出見られず～俗説に反するユーロ圏6月国際収支統計～)
2014年8月21日	FOMC議事要旨～「終わりの始まり」をどう考えるか～
2014年8月20日	本邦7月貿易収支などについて
2014年8月19日	最近のサービス収支動向～旅行収支は経常収支を支えるか～
2014年8月18日	ユーロショートカバーに備える地合い～3つの契機～
2014年8月15日	週末版(ユーロ圏4～6月期GDPなどを受けて～日本化議論は疑念を越え、予防的視点へ～)
2014年8月13日	本邦4～6月期GDP1次速報値などについて
2014年8月12日	「国際金融のジレンマ」がもたらす金融政策の通貨政策化
2014年8月11日	改めて認識する「放って置けば円安」シナリオ
2014年8月8日	ECB理事会を終えて～宣明掛けるような口先介入は焦りの表れ?～
2014年8月7日	ハードデータに及び始めたロシア・ウクライナ問題
2014年8月6日	ECB理事会プレビュー～「最良の地合い」で現状維持～
2014年8月5日	BIS国際与信統計における欧州とロシアの繋がりについて
2014年8月4日	ユーロ下落時のユーロ円化説の考え方～認識は変わらず～
2014年8月1日	週末版(ユーロ圏7月消費者物価指数(HICP)などを受けて～ECBとしては「早く結果が欲しい」状況～)
2014年7月30日	ドル建て日経平均株価から滲み出る過熱感
2014年7月28日	ターゲット型TLTRO(TLTRO)の展望とユーロ相場について
2014年7月25日	週末版
2014年7月24日	本邦6月貿易収支について
2014年7月23日	米消費者物価指数(CPI)を受けて考える為替相場
2014年7月22日	格差が始めたユーロ圏住宅価格～BIS年次報告に絡めて～
2014年7月18日	週末版(「事故的なイベント」は押し目の好機～狭いレンジでの処世術～)
2014年7月17日	『展望レポート』中間評価などについて
2014年7月15日	円相場は損益分岐点か?～『さくらレポート』などを受けて～
2014年7月14日	FRB、「今の利上げ」は「将来の利下げ」のため?
2014年7月11日	週末版(ポルトガルの銀行不安を受けて～金融不安は日本化懸念のダメ押し～)
2014年7月10日	巨額和解金騒動から派生する決済通貨の多様化論
2014年7月8日	国際収支や対内対外証券投資などから得られる需給イメージ
2014年7月7日	「生活意識に関するアンケート調査」に見る日本経済の現状
2014年7月4日	週末版(ECB理事会を終えて～市場期待に苛立つドラギ総裁は日銀を思い返すべき～)
2014年7月2日	フィリップス曲線にみるユーロ圏の構造変化
2014年7月1日	ECB理事会プレビュー～QEを止めつつ現状維持～
2014年6月27日	週末版(動かない相場)は企業の想定通り?～プラザ合意以降で最小の月間レンジに～)
2014年6月26日	14年前半の終わりを前に～史上最小レンジが視野に～
2014年6月24日	強まった「デフレの足音」～ユーロ圏労働コストなどについて～
2014年6月23日	ユーロ圏貿易収支などについて～縮小均衡?～
2014年6月20日	週末版(実質金利からみる最近の為替相場～ユーロに買い安心感、円に売り安心感～)
2014年6月19日	FOMCを終えて～アップサイドリスクを考える時?～
2014年6月18日	ユーロシステムの流動性と欧米中銀のバランスシート比較
2014年6月17日	成長戦略素案について～雇用規制はあらゆる問題の遠因～